

相手を尊重しながら築き上げていく気は最初からない。目当ては、男性を獲得することで得られる生活条件や安定した収入。

女はガッチリと男を捕まえて、月一万円という小遣いで身動きがとれないようにし、チューチューと夫の収入と社会的なリソースを吸いつくす。男たちはといえば、最初はバタバタともがくも、やがて諦めたようにグッタリとして、ゆっくりと収入やリソースを吸い尽くされ、最後は骨と皮になって死んでいく。

つまり、妻というのは男に箍(たが)をはめる女、箍女(たがめ)と言えなくないのです。

「結婚」や「家庭」というものを、無前提に「幸福なもの」とするのは幻想や思い込みにすぎない。

「今の彼氏は好きだけど、結婚の対象じゃないわ」

なんてことを言っている女子たちの話もよく聞きます。その彼氏というのはだいたいサラリーマンなどではなく、夢を追ってバイトで生計をたてているような若者だったりします。

「恋愛」とはまったく関係のない結婚の現実がそこにあります。

つまり、「恋愛結婚」と言いながらも、実態は大きくかけ離れており、正しくは「正社員だけが享受できるシステム」と呼んだほうが良いというぐらゐの現実なのです。

☆カエル男度チェックシート

1. パートナーや家庭を大事にしている
2. よく周囲から「愛妻家ですね」と冷やかされたり、「恐妻家」と呆れられたりする
3. 気がつく、「うちの女房が」「家内に聞かない」という言葉がでている
4. 住宅ローンを組んでいる
5. 月の小遣いは一万～三万円と決まっている
6. 職場にいるとなによりも落ち着くので、朝出勤をするときの気持ちは憂鬱というよりもウキウキしている
7. 時には、家に帰りたくない夜があってわざと寄り道をして帰宅する
8. フェイスブックに奥さんや子どもたちの写真をひんぱんに公開している
9. 学生時代よりも社会人になってからのほうがよくモテたと思う
10. よく部下や後輩に仕事を押しつけてしまう
11. 職場や周囲からは「コワモテ」だと思われている

12. 部下の指導力には自信がある
13. 周囲からは面倒見がいい親分肌だと思われている
14. 酔っばらうと居酒屋の店員やタクシーの運転手に威圧的なことを言う
15. 大きな声では言えないが、けっこうセクハラっぽい言動をしてしまう
16. 渡辺淳一の小説が好きだ
17. じつは若い愛人がいて、仲間内ではよく“愛人自慢”（浮気自慢）をしてしまう
18. 女性と交際をしているときは、自分が主導権を握っていると思う
19. 正直に告白すると、マンガの「島耕作」のような生き方に憧れている
20. たまには「俺も辛いんだよ」などと甘えたことを周囲に言ってみたい

0～4 カエル男度二〇パーセント

5～10 カエル男度五〇パーセント

11～15 カエル男度八〇パーセント

16～20 カエル男度一〇〇パーセント

つまり、学生時代はてんでモテなかったけれど、社会人になったら急激にモテようになったという男性は、働き始めて急に「オスとしての魅力」がアップしたというわけではなく、収入や企業名という要素によってモテているという可能性が非常に高いのです。

パートナーの生涯賃金や社会的リソースを吸い尽くすタガメ女たちにとって、このような男性はまさに「獲物」として最適であって、**あの手この手を使って自分に振り向かせて、口説くように仕向けます。**カエル男は、それを「モテた」と錯覚しているだけにすぎません。

世の男性たちの多くが、自分が女性を口説き、デートに誘って、プレゼントを渡して深い関係になると信じ込んでいます。結婚に関しても然りで、今は給料三カ月分とまではいかないかもかもしれませんが、コツコツと貯めたカネで買った婚約指輪とともにプロポーズをして、「嫁をもらう」と考えていることでしょう。

もし、それらがすべて**男性側の勝手な妄想**だとしたらどうでしょう？

女性側が、男性が口説くようにわざとスキを見せ、デートに誘うように仕向けて深い関係になるように導いているとしたら。そして、恋人にコツコツとカネを貯めるように促して、徐々に退路を塞ぎ、早くプロポーズをするように無言のプレッシャーで追いつめていっているとしたら……。

しかし、これまで私が研究してきたタガメ女たちの生態を見てみると、残念ながら口説かされたケースが圧倒的に多いという現実があります。**彼女たちは非常に計算高く、ときには甘え、ときにはしなだれかかき、カエル男が自分を口説くように仕向けます。**そして、気がつくとも結婚という「籠」をはめて身動きがとれぬようにして、チューチューとカエル男が生み出すカネやリソースを吸っているのです。

では、カエル男はどうしているのかというと、まったく気づいていません。身体にタガメ女の口吻が深く刺さり、じわじわと貪り喰われているにもかかわらず、まるでそれが目に入らないかのように「幸せ」だと自分に言い聞かせ、むしろ自分がタガメ女を捕食したかのように悦に入っています。

☆タガメ女度チェックシート

1. 規則正しい生活を送っており、周囲からよく「ちゃんとしているね」と言われる
2. パートナーには「〇時には帰る」という“カエルコール”を義務づけている
3. 相手が失敗をすると、「ほら、だから言ったでしょ」と言う
4. いかに関自分が日々の家事（仕事）を頑張っているかを周囲にアピールする
5. 習い事に夢中になっている
6. 休日は友人と会ったり、イベントが目白押しだったり忙しい
7. マンションの階層にこだわりをもっている（戸建ての場合は家の立地）
8. 近所からどう見られるかにはかなり敏感だ
9. スマホではなくガラケー（ガラパゴス・ケータイの略。日本国内では便利だが世界標準ではない）でドコモユーザーだ
10. 住宅ローンを組み、「郊外のベッドタウン」で暮らしている
11. 結婚願望は強かった（強い）
12. まとまったお金は投資型の運用よりも郵貯や積立保険にまわす
13. アルバムが充実している
14. 誕生日やクリスマスパーティなどのイベントを企画するのが好きだ
15. ディズニーランドが大好き
16. 女子会では“意味のない会話”を延々と続けられる
17. 身近に独身のオタク男性などがいると不安になる
18. 「主人は～」（カレは～）というのが口癖だ
19. PTA 活動（行事）では積極的に「役職」につき、懸命にこなす
20. 働きながら子育てをする女性や独身女性とはあまり親しくしない

0～4 タガメ女度二〇パーセント

5～10 タガメ女度五〇パーセント

11～15 タガメ女度八〇パーセント

16～20 タガメ女度一〇〇パーセント

このような「ちゃんとした女性」が、人生において最も重視しているものは何かというと、それは「約束」です。彼女たちはなによりも秩序や規則というものを重んじるため、パートナーや家族に対してもそれを守ることを強要します。つまり、「一緒にこのルールを守っていきましょう」という同意です。

その最たるものが、「結婚」なのかもしれません。一生愛し抜きます。浮気はしません。一年に一回は海外旅行に連れていきます……等々の約束の積み重ねが結婚だということは多くの人が認めることでしょう。

ここで、約束を反故にされるということは、タガメ女にとって最大の恐怖なのです。結婚すると口約束をしたけどやっぱりやめた、なんて軽々に言われたら、男のカネやリソースを吸い尽くそうとしている彼女たちにすれば、死活問題でしょう。

では、カエル男たちにこのような約束を守らせるためにはどうするのかというと、「約束を破るというのは罪だ」というように徹底的に洗脳していくのです。代表的なものが、「カエルコール」です。

意外に思われるかもしれませんが、彼女たちは別に人もうらやむような存在になりたいわけでもなく、「みんなと同じ」に見られたがっているのです。

周囲と同じような幸せで、周囲と同じような忙しさが演出できればそれで良し。特に見栄を張るようなこともなく、均質を求めるのです

若い女性というのはよく集まると、自分の恋人や恋愛についての話をします。これを「恋話」（こいばな）とか「ガールズトーク」などとかわいらしく表現していますが、じつはタガメ女たちがそれぞれの“獲物”や“所有物”について自慢し合っているというのが本当の姿なのです。

こうして三〇年ローンのマイホームという「約束の牢獄」と会社を往復させて、「七時には帰るよ」という「カエルコール」でさらにがんじがらめに縛る。

「おまえは遊んでいるだけじゃないか」

という批判がでないように、アリバイとしての育児と家事を懸命に行いながら、カエル男が逃げ出さないように家族写真やディズニーランドで、「幸福」という証拠をちらつかせる――。

専業主婦にとって「亭主の浮気」は自らの「身分」を揺るがしかねない、非常にセンシティブなテーマです。いったい誰がこの難問に対してアンサーするのかと、互いに顔を見合わせていると、沈黙を破ったのはやや年嵩(としかさ)の、あるベテラン専業主婦でした。

「そういう時はね、嫉妬に狂う演技をするのよ、たとえばネクタイを切り刻んだりして」

しばしの沈黙の後、なるほどとうなずく若い専業主婦。

そんな

とき、避妊具をつけようとしたら、女性側がこんなことを言い出します。

「今日は大丈夫だから」

この甘い誘惑に乗ってしまうとさあ大変。

行為に及んでしばらくして、男性がもうダメだと腰を引こうとするも、ピクリとも動きません。見れば、**女性が両脚で“カニばさみ”**をしているのです。快楽に身を重ねている男性は冷静な判断力を失います。

「まあ、この娘も大丈夫と言っていたし」

と流れに任せてしまうと、数ヵ月後には上司に行内結婚を報告するハメになる、というわけです。

着替えようとしたら、愛人にもらったネクタイが切り刻まれていた。

夜中にトイレに起きたら、暗闇のキッチンで妻がぶつぶつ言っていた。

— もしそんな場面に遭遇したら、ほとんどの男性は、

「これ以上調子に乗ったら、とんでもないことになる」

と恐怖を感じるはずです。

つまり、タガメ女にとって「嫉妬に狂った演技をする」というのは、カエル男に恐怖というきついお灸をすえて、**自らへの従順さを思い返させるためのもの**なのです。

重ねて記しますが、ほとんどの女性がちらつかせている「自殺」

というのは、じつは本当に死にたいわけではなく、**男性に判断を変えさせるための“脅し”**なのです。

「男をふりまわす肉食女」＝「黒タガメ」

「男に尽くす草食女」＝「白タガメ」

では、タガメ女たちは「男性にとって魅力的な女」をどのようにして演じるのでしょうか。Bさんがかつて私たち後輩に「**魅力的な女性に見えるポイント**」をアドバイスしてくれたことがあります。タガメ女の生態を知るうえでも非常に参考になるのでご紹介しましょう。

1. 欠点を見せない
2. ミステリアスな女性になる
3. 追いかけるのではなく相手に自分を追わせる
4. 「本命」とそうでないものをはっきりわかる
5. 「本命」の存在を隠す
6. 名前や住所、誕生日などは教えない

7. 過去の恋愛を話さない

ウソをつくのは発覚した

際リスクもあるので、「彼氏はたくさんいるよ」なんて冗談めかして煙にまき、オトナの男女でそれ以上追及するのは“野暮”というような雰囲気をつくる。相手に恨まれないための「保険」として、自らの個人情報には明かさない。偽名とニセの住所・ニセの生年月日で完全に「別人格」になりきるそうです。

それなら、Bさんが「尽くす女」を演じたり、タガメ女たちが「嫉妬に狂う女」を演じるのも駆け引きじゃないかとお思いでしょうが、これはまったく次元が違うのです。

彼女たちがそのような演技をするのは、恋愛感情からではありません。いい獲物をゲットしたい、食事のエサを他のタガメ女にとられたくない、という独占欲からです。

本来であれば互いの感情によって結びつき、その感情によって築き上げられていくであろう「家庭」ですが、タガメ女たちは生存のためにカエル男をダマし、自らの本当の気持ちすらも偽って「偽装された家庭」を生み出します。

ニセモノですから、当然その中で暮らす者に安らぎはありません。

その男性を獲得することで得られる生活条件や安定した収入

彼女からすると、有利に離婚をするためのものだったので、正気を失った男に「約束」は通用しませんでした。不倫相手との通話を録音することに成功した彼女はその証拠をつきつけて離婚を迫りました。しかし、夫はまったく取り合いませんでした。

かくして、彼女は、「地球上の全部のエネルギーが身体から込みあげてくる感じ」（法廷での証言）がして、ワインボトルで寝ている夫の頭をなぐりつけるということになったのです。

公判で、妻は夫を殺したことについてまったく後悔しておらず、むしろせいせいしたというような主旨のことを言って、世間を驚かせましたが、私は当然だと思います。

タガメ女からすれば、カエル男はエサにすぎません。「約束」も守らず反撃に出るようなエサには、もはや生きる価値などありません。

憎しみがエネルギーのもとだと思ふ。

たとえば、高層マンションなどに住んで、ちょっときらびやかにしているママ友たちのベビーカーを見てみると、ほとんどが「マクラーレン」や「シルバークロス」という海外メーカーで、わりと高価なベビーカーです。

一方、比較的庶民的な感じがするママ友たちが押しているのはだいたい「コンビ」や「ピジョン」という国産メーカーと、まるで線で引かれたように異なっているのです。

このことから、ベビーカーが「自家用車」のように、家庭のランクを示すひとつのステータスになっているという現状が浮かび上がります。

ステータスとはつまり「階層」のことです。タガメ女たちは身につけているものや、マンションや家、そして獲物であるカエル男のスペックなどから、自分と同じ階層なのかを瞬時に判断するのではないのでしょうか。

「開業資金を貯めるために、今までのような生活はさせてあげられない。君も一緒になって僕を支えてくれ」

たしかに、結婚をするとき、「あなたを支えたい」とは言ったけれど、それは家事や育児のことであって、経済的な意味ではないのに、という不満をぐっと呑み込んで、渋々、パートにでることに。

それでも内心では納得のいかない彼女は、ネットの質問箱にこんな投稿をしました。

医師と結婚をしたのに家計を助けるためにパートをすることになりました。開業資金を貯めるためですが、**こんなの詐欺だとは思いませんか？** こんなことを思う私のほうが悪いのでしょうか？